



まちネット 寄居通信『さあ 手をつなご!』はみなさんの支援力がエネルギー源

太陽光発電設備に 新たな条例制定を!

この10年余りに、私の自宅から約2km圏内に大小9ヶ所の太陽光発電設備が建設されています。自然エネルギーの推進は必要であっても、その開発の勢いはすさまじいばかりで、年々奪われていく平地林の喪失に危機感を持たざるを得ません。

現在、寄居町今市地区内でも太陽光発電施設設置計画が行われています。

8年間、私たちが家庭菜園講座でお世話になっていた畑地を含めて周囲の平地林が計画地で、約17ヘクタール、4800枚以上の太陽光パネルが設置される計画です。

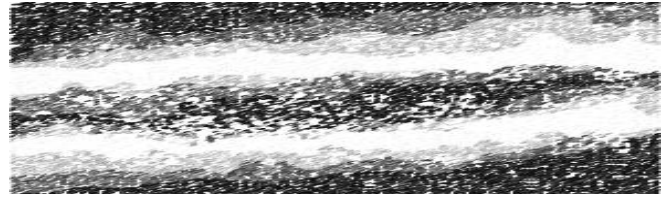
8月28日に初めての地域住民等への説明会が開催されましたが、説明会と言いながらも地域住民の質問に充分答えられない状況にあり、事業者側は焦って説明会を先行し、手続きを早く終わらせたい思惑が感じられました。もともとこの計画地は湿地帯で、大雨が降ると道路、側溝、畑に雨水が溢れ出し、その下流にある鷹巣地区では2019年の豪雨時には床下浸水、低地一帯の水没など大きな被害が出ました。側溝と道路、畑、他が一面水に埋まるすさまじい状況でした。このような水はけの悪い土地柄にもかかわらず、保水力のある平地林が伐採されることで、さらなる被害の拡大が懸念されます。

また、12月18日第2回の説明会が開催されましたが、新たな問題も浮上。家庭菜園講座で使わせていただいた畑は、元の地目は、山林。その後畑として使用し現況は農地となっています。これは町も認識していましたが、事業者側は、山林として土地の取得登記をしていました。農地転用に関しては、町の農業委員会の承諾が必要ですが、これを飛び越えての取得がなぜ可能だったのか、法務局がなぜ認めたのかその経緯はよくわかりませんが、これは明らかに不法行為であり、この問題はこれから正確な説明と手続きなど迫られます。2023年3月末までに計画地の認証IDを取得しないと計画が頓挫することから事業者側の強引に進めようとする姿勢が伝わってきます。一度失われた自然はもう二度と元には戻りません。生態系の遺伝子レベルからもなりふり構わぬ開発は認められません。



追悼

大北久勝議員



今や隣接する深谷市(旧川本町)小川町などでもおびただしい数の太陽光発電施設ができていますし、計画途上のものも数多くあります。そして、この計画地の多くで環境、生態系、歴史的痕跡など何らかの問題が浮上しています。そんな状況下で、寄居町には、事業を推進するためのガイドラインはありますが、自然環境と景観に配慮し、生活環境の保全を目的とした条例は策定されていません。

近隣の鳩山町では自然環境に配慮した条例を2022年4月から施行していますが、大変参考になる内容です。



条例の目的として

「自然環境と景観保全に関する必要な事項を定めることにより町民の生命及び財産の保護、豊かな自然環境及び良好な景観の形成並びに生活環境の保全を図ることを目的とする」と制定されています。

また建設事業者はその計画資料を町にホームページ上に掲載し、誰でもがその内容を閲覧できます。

将来的な町の財産を考えた時、今残されている自然環境はかけがえのない財産です。しっかりと次の世代へ手渡していかなければならない資源です。

今、緊急に寄居町での条例制定が迫られています。皆さんからのご意見をお寄せください。



コロナで延び延びになっていた「はてなサロン」。ついに再開することができなくなりました。まちネット寄居創設時からの会員で、町議会議員として活動していた大北久勝議員が9月に逝去されました。

はてなサロンでは、議会の情報を様々な角度から発信し、これからの寄居町の方向性をみんなで探っていこうと話合ってきました。その中では、9月議会は決算の会議であり、その後の予算編成に向けて調査活動等の予算要望も提出していきましょうと提言もありました。しかし、このコロナ禍で思うような活動が組み立てられないまま手付けず状態となってしまいました。今後の活動にぜひ生かしていくためにも皆さんからの提案、ご意見もぜひお寄せ願えればと思っています。



故大北議員の足跡を追う中で、一番評価されることは「寄居町土砂等による土地の埋立て等の規制に関する条例」の制定に貢献したことがあげられます。2020年の一般質問で「寄居町の秩序ある開発に向けた条例整備を問う」この問題を取り上げ、町長、関係部所への働きかけをすることで、この条例は異例の速さで制定され、2022年1月1日より施行されました。今までにないケースとして先輩議員からも評価されたといえます。

その他一般質問では1番を目指していち早く事務局へ提出。病に倒れるまでは実践していました。また、男衾中学校建て替え問題の一般質問では、町長の公約が反故になった経緯、公約の認識、姿勢を問いました。常に財源がないということが優先される中、その

実現に向けての中長期的な施策が打てなかったのか、町の予備費の中から配分する、基金を創設するなど遂行へのアクションが何もなかったことを挙げていました。

そして、議会レポートも発行。わかりやすく議会の動きを発信していました。まだまだこれから様々な取り組みが期待される中での逝去でしたので、本当に残念です。まちネット寄居の活動では、通信への寄稿、チラシ制作、家庭菜園講座のプレゼン、過去の町長選挙の際には候補者の方々の演説会の企画に力を注いでいただきました。力強い仲間として存在感の大きい人でした。今後は大北議員の活動を引き継ぎながら、子どもたちに寄居の資産を少しでも多く手渡せるよう、魅力ある、笑顔で暮らせるまちづくり活動を継続していきたいと思えます。



合掌

大北久勝さんの Twitter

大北ひさかつツイート217

つい最近、大北久勝さんのツイートを読み返した。デジタル遺産という言葉にはボンヤリとマイナスイメージを持っていたけれど、こうして今、大北さんの考えていた事の一端を知り、一言一言の意味する現実と意味を考える機会が持てる事にプラスな、そして新鮮な気持ちを感じた。その中で私が一番興味を持ったのが以下のツイート。

「寄居町での小・中一貫教育の実現は県北をリードする施策、と考えている。複式学級が現実味をおびはじめ将来を見据えた教育施設のあり方は、これからの大テーマになる。教育環境は町に定住する選択肢。とも考えている。」
2020/03/14

「とりわけ学校施設も含めた教育環境は IT 化を含め様変わりする。小・中一貫教育も単なる一貫の推進

ではなく、エネルギー、都市計画、暮らしの総合的な町づくりでとらえた一貫教育の視点が不可欠になる。議員の長期ビジョン能力が試される。」
2020/07/15

背景には町づくりのグランドデザインがある事を感じた。私も町づくりを考えてみたい、がしかし考慮しなくてはならないことが多くて、深いことに怖気づく。

やはり私の様なド素人が何とか向き合ってみるには、「わたくし発」しかないか。そう思い始めた時、町づくりについて、大北さんが定例会で話してくれた事が思い出された。

「寄居町は例えば町の特色として、日帰りや宿泊で受ける人間ドックを目玉にしてはどうだろうか？

首都圏からのアクセスも良い、綺麗な荒川の流れや、ハイキングに向いた高すぎない山々、そして長瀬秩父を控えているし、農産物も豊富だから、魅力的な町になるだろう」。

わーいいいな。それを聞いて、ああしたいこうしたいが膨らむ。

ドックが済んだら、川遊びをして、いや川辺を歩くだけでもいい。中間平から遠く都市部を見渡すものいい。新鮮な野菜を使ったレストランを楽しみ、農場体験、ちょっと足を延ばして秩父の温泉。アウトレットに行くものいい。

そんな理想の町づくりを実現する為に、何がいるの？財源も自然もある。そうか人材か。まずはこの町に住む私たちが安心して暮らしを楽しんでいる事。そうしていれば、そしてそれを伝えていけば、人々は他所からやってくる。通ってくるうちに、住んでくれる人もいだろう。そしてその人たちが安心して楽しんで豊かに暮らし、また、伝えていけば、人々はやってくる。そんな中で、新たな町づくりの担い手も出てくるかもしれない。大きな渦を巻いて寄居町が満たされていく。そんなイメージ。どこまでいい調子だけど、理想が現実になるには何を考えて、行動していけばいいの？

まず、気になる財政状況。それはツイートにあった！

「財政事情 ・借金比率 を示す 実質交際費 40% (国の基準を大きく下回、健全。・将来財政を占う数字ある 将来負担比率 43.3%(こちら良好))

こちらは今のところ安心して良さそうだ。
しかし、目玉のドックをする医療機関はどうするの？
新設？既存との連携？
食を含んだ数々のアクティビティは？それをつなげる
移動手段は？などなど疑問だらけ。それどころか、
私には思いつけない様々な課題もありそう。あの時、
いろいろ聞いておけば良かった……。

せめて今、思いつく出来そうで、やりたいことは、ま
ちネットに限定せず町内で活動している様々な人々
が集まって、各々の描く町づくりを聞き合う事。そし
て私の疑問を投げかける事。コロナに配慮しながら、
来年は集まる機会を出来るだけ多く持ちたいなあ。
(KY)



また悪化？介護保険の今

2000年にスタートした介護保険。22年が経過す
る中、見直しは何回となく行われていますが、その都
度改正ならぬ改悪となってきました。今回もまた財
政難を理由にさらにサービス低下と言わざるを得な
い、目先のお手当が改正が続行されています。多く
の現場、専門家からも根本的な対策になっていない
といった声が上がっています。ネット会員で介護の現
場で働く方から声をあげていただきました。



介護保険の利用で多くの高齢者、家族の方は助か
っていると思います。が高齢者の増加、支える人の減
少、世の中の状況、財政難と利用の幅が年々狭くな
ってきています。聞いたところによると近い将来、要
介護1、2は市町村の管轄になるとか。これって地域
差が出るってこと？寄居町は高齢者が多く、若い人
が少ない……。ということは財政難！単純に考えても
今までの利用ができなくなるってこと？理想は寄居
町独自のサービスプラスで今まで以上になる福祉政

策と思います。

自治体は地域、家族で支え合いましょときれい
ごとを言い、利用日数やサービスを削減するつもり
なのでしょうか？それにより高齢者の体調悪化、生
活の質の低下、利用金額増、サポートする家族、近所
の負担増……自分の両親のこと、仕事(訪問介護)が
どのようになっていくのか、ともやもやと考えていま
す。どの地域世代でも安心して暮らせるようにしてい
きたいです。



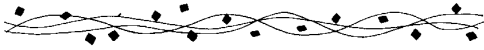
N.O

埼玉県市民ネットワークから 県議選に2名の擁立

2023年、統一地方選挙が埼玉県議会議員選挙
からスタートする。この県議選になんと2名を擁立す
ることが12月22日臨時総代会で決定。

越谷ネットの現職、辻こうじさん、そしてよしかわ
ネットの新人岩田京子さんだ。越谷は、定員4名、吉
川・松伏は1人区。ここで臨時総代会での資料からの
情報。普段自分の選挙区以外あまり意識しないのだ
が、埼玉県議会がなぜ自民党が圧倒的に強いのか
がよくわかる。全選挙区52区。うち1人区27ヶ所、
2人区が16ヶ所合わせて43ヶ所。3人区5ヶ所。
4人区3ヶ所。7人区1カ所(川口市のみ)1人区は
どうしても保守地盤となる。この1人区での岩田さん
の立候補予定は、相当な冒険となるかも。それでも
自民党一色ではなく内部での亀裂が見える中、全く
可能性がないわけではないという。少しでも可能性
が見いだせるなら挑戦あるのみ。この勇気に敬服す
る。動かなければ変わらないことはわたしたちが今
まで十分すぎるほど経験してきた。それ故に精いっ
ぱいの応援をしていきたい。吉川市、松伏市に友人
知人、親せきなどいらっしゃる方はぜひお声掛けし
てほしい。一人でも多くの市民派の議員を誕生させたい。

ただいま断捨離中



昨年仕事を辞めて、まずしようと思っていたのは片付け。

いわゆる断捨離です。

さあ時間が出来たから！と思いきや中々捗りません。

雑貨はともかく、家族の物や使える物は捨て難い。考えた末に、売れる物かどうか見極める為、箱入り新古品の鍋を3個、某店舗に持込みました。2個は引取り不可、1個は50円。

状態の悪いCDも90枚全て引取り不可(重かった！)。

成程、手間賃にもなりませんでしたがふと気づきました。金額ではない、物を捨てる事なく誰かに活かしてほしい。

でも、自分が要らないのに都合よく使いたいという人が居る訳がなく引き取り手のいない鍋は不燃ごみに出しました。

少しずつ見直しながら罪悪感(?)含め色々捨てる必要を改めて認識。

自分の物だけでは無いので難しい面もあるけれど。己の中途半端な物欲も断捨離してすっきりした環境を目指したい!

そう思った日でした。

断捨離は仏教ヨガの思想から来ている用語だそうですね。

ウィキペディアで改めて検索、今は断捨離提唱者のやましたさんに関する事が主でした。

彼女が注目されるのはもっともです。

物の少ない時代を過ごした親世代が物を大事に取っておいた結果でしょうか。

特に田舎では場所だけはあったのでそんな家が多いのかもしれませんが。

キッチン用品に食器、押入れいっぱい布団、シーツにタオル衣類、慶弔時の頂き物等。

物で溢れかえっていた高度経済成長期、使いきれず、捨てるに捨てられず、といったところか。

出番も無く時を失したモノたち。何時の物が不明なので、使おうと思ったら

経年劣化で只のゴミになるやもしれず、故に他人様にもあげられず。

家族が大事に取っておいた気持ち、それを思っても使うこともできないので。

いずれ捨てなくてはと思いながら、その手間と労力を考えると気が遠くなる思いです。

不要なものを有効利用してくれる人に渡せる事が出来たら良いのに、と思います。

そんな都合の良いシステムないでしょうか。

その前に整理分別!

断捨離は必要。

Y.M



平均寿命の推移

国保新聞より

戦後、日本人の平均寿命が大幅に伸びてきたことはよく知られていますが、この間の具体的な数値をきちんと把握はしていませんでした。2022年に発行された国保新聞にその資料が掲載されていました。こういった数値を見ると改めて戦後からの平均寿命の伸びに驚かされます。しかし、健康寿命はどうか、この健康寿命をいかに伸ばしていくかが問われています。

さらに、このコロナ禍において、生活困窮、精神的圧迫などから女性の自殺率が大きくなっていると報道されています。これからの地域の大きな課題として、身近で繋がる居場所づくりがもっとも必要になっていくと思います。熊谷ブロック地域協議会で地域の居場所をテーマに活動を始めています。私たち

の身近で老後寄り添える、安心できる仲間づくりの居場所の重要性を痛感しています。

平均寿命の年次推移

| | 男 | 女 | 男女差 |
|--------|-------|-------|------|
| 昭和22年 | 50.06 | 53.96 | 3.90 |
| 25~27年 | 59.57 | 62.97 | 3.40 |
| 30年 | 63.60 | 76.75 | 4.15 |
| 35年 | 65.32 | 70.19 | 4.87 |
| 40年 | 67.74 | 72.92 | 5.18 |
| 45年 | 69.31 | 74.66 | 5.35 |
| 50年 | 71.73 | 76.89 | 5.16 |
| 55年 | 73.35 | 78.76 | 5.41 |
| 60年 | 74.78 | 80.48 | 5.70 |
| 平成2年 | 75.92 | 81.90 | 5.98 |
| 7年 | 76.38 | 82.85 | 6.47 |
| 12年 | 77.72 | 84.60 | 6.88 |
| 17年 | 78.56 | 85.52 | 6.96 |
| 22年 | 79.55 | 86.30 | 6.75 |
| 27年 | 80.75 | 86.99 | 6.24 |
| 令和2年 | 81.56 | 87.71 | 6.15 |
| 3年 | 81.47 | 87.57 | 6.10 |

るというが因果関係は認められていない。基礎疾患を持つ方の死亡例が多いためなのか。しかし当初基礎疾患のある方は優先的にといった呼びかけもあった。

また、この場に出席していた医師の話では、ワクチン接種をすることで自然免疫力が抑制されるという。4回5回と接種するたびに低下する。事例では今まで健康体であった28歳男性、ワクチン接種の5日後に死亡。解剖の結果、心筋融解、(横紋筋融解)があったという。この副作用は事前に告知され、危険性も指摘されていたとのこと。

また、接種後の感染者の死亡率は未接種の人より多いという驚くべきデータも提示されている。今や80%以上がブレークスルー感染だという。接種すればするほど感染が広がる脅威。またほかの疾患も増えているといった報告もある。こういった情報は今までほとんど表には出てこなかった。マスクも一切取り上げない。国策に沿っての報道しかない。あまりにも偏った報道、情報でしかなかったのでは。まだまだ先の見えない新型コロナ感染。ワクチンより有効な薬の開発をという声が高まる。冷静にコロナワクチン接種を考える時かもしれない。いや時少し遅きかも。

新型コロナワクチン接種を 考える

11月25日に衆議院会館で行われた、参議院議員の川田龍平さんの声掛けで集まった超党派での「新型コロナワクチン接種と死亡事例の因果関係を考える」勉強会の動画をみる機会があった。そこで改めて驚かされたのは、コロナ感染者の死亡数は毎日報道されているが、ワクチンそのものでの被害はほとんど報道されないこと。

ワクチン接種後に亡くなった遺族の方々の声を初めて聴く。相当悲痛な声である。現実問題、ワクチン接種後の死亡の因果関係を立証することはかなり困難な状況である。

実際に接種後に1900名以上の方が亡くなってい



編集後記

長い長い2022年となった。長年連れ添ったパートナーを失うという現実に向き合うこととなった。あらゆる生命は必ずその終わりを迎えることはわかっている。が、今でなくていい、いつかXデイを迎える。そんなぼんやりとした認識でしかなかった。家族の死は、誰でもが経験すること。あるいはしてきたこと。決して特別なことではない。長年の連れ合いの喪失は、簡単には癒えないが、その寂寥感も含めて、これも私の人生の厚みととらえて、前を向いてリスタートだ。



H, O